

知事記者会見の概要

日 時：令和7年10月16日（木） 10:01～10:39

場 所：502会議室

出席記者：13名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 「やまがた環境展2025」の開催について
- (2) 令和7年度新規就農者動向調査の結果について

代表質問

- (1) 自民党新総裁の選出について
- (2) 新首相への期待について

フリー質問

- (1) 代表質問2に関連して
- (2) 発表事項2に関連して
- (3) 宮城県仙台市における全国初のクマの「緊急銃猟」について
- (4) 「緊急銃猟タスクフォース」について
- (5) 代表質問1に関連して
- (6) 最上義光を題材とするNHK大河ドラマの実現に向けた活動について

<幹事社：毎日・産経・YBC>

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。すっかり秋らしくなってきました。

昨日ですね、昨日も天童や仙台でクマの出没情報ということがありました。

県内のクマの目撃件数は1,500件を超えました。過去に例を見ないペースとなっております。また、先日は今年7件目となる人身被害が発生するなど、より一層、警戒が必要な状態が続いております。被害に遭われた方には、心からお見舞いを申し上げます。

県民の皆様には、改めて、「クマの活動が活発になる早朝や夜間は特に注意をすること」、「キノコ採りなどで山に入る際や農作業の際、また、クマの目撃情報があったところでは、音が出るものを携帯すること」、など、お一人おひとりが身を守る行動をとっていただきますようお願いいたします。

また、「緊急銃猟制度」が9月から始まっております。県としましても、市町村の担当者向けの説明会を開催しておりますが、市町村長からは、さまざまな懸念や疑問といったご相談をいただいております。

そこで、県と県警が連携して、「緊急銃猟タスクフォース」として市町村長を訪問し、直接、ご相談に対応することといたしました。

第1弾として、10月21日に河北町を訪問することとしております。今後も希望に応じて、随時対応する予定でございます。市町村が緊急銃猟制度を円滑に運用できるよう、県としても引き続き、支援をしてまいりたいと考えております。

次は、国スポ（国民スポーツ大会）についてですが、滋賀県をメイン会場に開催された「第79回国民スポーツ大会」、本大会では、本県選手団423名の皆さんが、これまで積み上げてきた練習の成果を存分に発揮し、バスケットボール成年女子が10年ぶりに優勝しました。また、競泳成年女子、カヌー少年男子、馬術少年の4競技で優勝、16競技で入賞するなど、特に若い力と女性アスリートの躍進が県勢を引っ張り、未来につながる成績を収めてくれました。

この結果、天皇杯順位は42位、皇后杯順位は30位となりました。

本県選手団の活躍は、県民に元気と活力をもたらしてくれましたし、選手団の皆さんが、この経験を次に活かして、それぞれの競技で、さらなる高みを目指して挑み続けてくれることを期待しているところであります。

☆発表事項

知事

ここで、発表2点ございます。1点目は、「やまがた環境展」についてです。

「やまがた環境展2025」の開催について申し上げますが、循環型社会の形成やカーボンニュートラルの実現に向けて、10月18日土曜日と19日日曜日の2日間、山形市の山形国際交流プラザ山形ビッグウイングで「やまがた環境展2025」を開催いたします。

「やまがた環境展」は、平成15年度に開催した「環境産業まつり」に始まり、今年で23回

目の開催となります。

今年は、テーマを「あなたの一步が未来をつくる」とし、48の出展者による環境配慮製品や環境技術などの展示、情報発信のほか、学生ボランティアによるワークショップなど、親子で楽しめる体験型の企画も多く予定されております。

また、アルピニスト野口健氏によるトークショーでは、山の魅力や、清掃登山の経験を踏まえた環境保全の重要性などについて、お話を伺えるものと考えております。

さらに、例年好評を博している、使わなくなったおもちゃの交換会「かえっこバザール」のほか、水素エネルギーの普及啓発として、水素を燃料とする燃料電池自動車の展示や、お子さんも楽しめる水素の実験ショーなども予定しております。

環境について楽しく学べるイベントとなっておりますので、多くの皆様から足を運んでいただきたいと思います。

2点目は、令和7年度の新規就農者動向調査の結果についてであります。お手元に資料を配布しておりますので、併せてご覧ください。

令和7年度の新規就農者は405人。これは昨年度を22人上回りました。調査を開始した昭和60年以降、初めて400人を超える結果となったところです。また、10年連続で東北1位となりました。

県では以前から、関係機関・団体・市町村と連携して、就農の動機付けから定着までの各段階に応じたきめ細かい支援を行ってきたところであり、大変喜ばしいことだと思っております。

農業従事者が年間1,400人減少している中であって、新規就農者数は、まだまだ足りない状況でございます。今後とも、より多くの方に就農してもらえよう、引き続き関係機関と一緒に、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

なお、詳細につきましては、後ほど農林水産部から説明いたします。

私からは以上であります。

☆代表質問

記者

毎日新聞の古賀と申します。よろしくお願いします。

それでは、幹事社の質問始めさせていただきます。まず1点目に、先日、自民党の総裁選挙で高市早苗衆院議員が総裁に決定しました。これに対する所感を、女性初の総裁であることも含めてお答えください。

知事

はい。では、お答えいたします。

10月4日に投開票が行われた自民党総裁選挙におきまして、高市早苗衆院議員が新たな総

裁に選出されました。心からお祝いを申し上げます。

女性で初めての総裁就任ということでもあり、女性活躍の輪をさらに推し進めるきっかけになるのではないかと期待をしているところであります。

また、高市新総裁は、総務大臣を長く務められましたし、数々の要職を歴任された方ですので、そのご経験を十分に活かして、リーダーシップを発揮されることをご期待申し上げます。

記者

ありがとうございます。

次に、2点目なんですけれども、まもなく、来週でしょうか、近く石破首相に代わり、新たな首相が選出されると思います。新たな首相に、山形県知事としてどのようなことを期待されているかお答えください。

知事

はい。現時点ではどなたが首相に選出されるか不透明な状況となっておりますが、本県では、少子高齢化を伴う人口減少の加速により、あらゆる分野で人手不足の深刻化が懸念されます。また、物価高騰の長期化、自然災害の頻発・激甚化、加えて、特にですね、医療・福祉分野などにおける経営状況など、県民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしている状況にあります。

また、国際情勢への対応も我が国にとって大変重要です。国際情勢と言いましても、関税とかですね、いろいろなことが県にも影響が及ぶということが考えられます。まさに、国内外に待ったなしの課題が山積している状況であります。

新たな首相には、国内外の課題に迅速にご対応いただくとともに、地方の声や意見に正面から向き合って、地域の活力創出につながる施策を積極的に推し進めていただくことを心から期待しております。

記者

ありがとうございました。幹事社からは以上です。

☆フリー質問

記者

読売新聞の仲條です。よろしくお願いいたします。

先ほど、幹事社の質問と関連するんですけれども、国政の政局といたしますか、動きが非常に目まぐるしい状況が続いてるかと思います。

先日には、連立与党を組んでいる公明党が自民党との連立政権から離脱をすることになりました。国政では大きな影響を及ぼしている状況かと思いますが、山形県政に影響は

どのようなものが及ぶとお考えになりますでしょうか。

知事

あの、どういった点が。

記者

公明党の国政における連立離脱というところで、何か影響を及ぼすものがあるのかどうかというところは。

知事

山形県に及ぼす影響ですか？いや、それについてはまず、党がですね、連携するとかしないとか、そういうことについては、私はコメントを差し控えさせていただきますけれども、そういったことで政権と言いますか、首相が選ばれるというのがちょっと遅れてしまうと、やはりさまざまな決断ですね、それも遅れてしまつて、結局、地方と言いますか、要するに国民全体に対するさまざまな施策の遅れということにつながるというふうに変に懸念をしております。

あと、党と党の連立というようなことについては、私はコメントは差し控えさせていただきます。

記者

直接の影響は、直結するわけではないんだけど、政治空白とかそういう状況次第で国全体への政治への影響が及ぶことで間接的に県内に影響も及ぼし得るのではないかということですかね。

知事

はい、新しい首相となられる方に迅速な対応を期待しているということを、先ほど申し上げましたが、やっぱり国民生活、さまざまな事業活動は本当に、今大変切迫していると言いますか、非常に困っている方々がたくさんおられますので、そういった施策というものをですね、政府としてできるだけ迅速に決定していただき、取り組んでいただきたいというふうに思っています。

記者

すいません、山形新聞稲村です。

発表事項にありました、新規就農者の件でお尋ねしたいと思います。あらためて、405人、この400人を超えたことに対する知事の受け止めをお聞きしたいのと、要するに、これだけ多くの方が新たに関わるという大変喜ばしいことだと思うのですが、その人たちが離農しない

ような、離れてしまわないような取組みも必要になってくると思うのですが、そのあたりも含めてお聞きできればと思います。

知事

はい。本当に多くの方がですね、東北で最も多く10年連続で新規就農ということになりました。そのことについては、大変喜ばしく思っております。今記者さんがおっしゃったようにですね、やはり、途中でね、離農ということにならないように、関係機関と一緒に頑張ってさまざまな施策、支援といったことを講じながら見守って、また、支えていければなというふうに思っています。

記者

河北新報の八木と申します。よろしくお願いします。

冒頭でも知事の発言であったかと思うのですけれども、クマに関する質問だったのですけれども、昨日ですね、山形県山形市の隣の仙台市でですね、新しい制度の下でのクマの緊急銃猟、これが全国初めて行われたということで、山形県も先ほどのお話の通り、今年クマが非常に出没されていて、鶴岡市なんかでも指示が出たけれども、これはまた別の法律で駆除されたということなのですけれども、そういう首長の判断も出されているということで、そんな中、隣の仙台市でですね、初めて、全国初緊急銃猟が行われたということに対するご所感と言いますか、受け止めというか、そういったところどういったお考えですか。

知事

そうですね。本当に全国的にクマの目撃や出没情報というのがたくさんありまして、そういう中で政府でも緊急銃猟制度というものができてね、全国的にいつそれが実施されるのかと注目をされていたと思います。ですが、そのクマの出没が、天童でありましたらば、市街地からちょっとはずれたところに移動したとかですね、さまざまな、本当にその1つ1つのケースが全部違いますので、そのケースごとにしっかりと判断されて、他の制度で駆除したり、さまざまその実態に合った対処ということをやっているのだと思いますので、仙台市が1番早くなりましたけれども、緊急銃猟にしっかりと状況が合っていた中で、実施されたのかなというふうに思っています。

記者

では、それを踏まえて、たとえば1回こういう制度で駆除がなされると、その後も散発的にいろいろなところで、1回どこかがやるとまたやり易くなるみたいな、そういう見立てみたいなものというのは何かありますか。

知事

そうですね。そういった影響もあるかもしれないのですけれども、どの位影響があるかとかないかとかいうのは、ちょっと私からは今ですね、申し上げることはできません。ただ、実施した例があるというようなことは、1つの大きなポテンシャルにはなるのかなと思います。

記者

NHKの内藤と申します。冒頭で知事のほうから、「緊急銃猟タスクフォース」を設立されるということがありましたけれども、その背景として緊急銃猟を判断する権限がある市町村長から緊急銃猟について懸念や疑問というような相談が、県のほうに寄せられているということでした。

たとえばどのような声が寄せられているのかということと、それから、第一弾として河北町を訪問するということですが、具体的にどういった相談に乗るというようなことを想定されているのかということ、それからこうしたタスクフォースを県として作られる狙いといったところをちょっと教えていただければと思います。

知事

はい。緊急銃猟制度というのはやはり、それまでもですね、市街地にクマが出た場合にどういうふうな判断で、どういうふうな実施をするのかというのは大変な課題だったと思うのですが、やはり市街地で銃猟を行うということは大きな責任が伴いますし、さまざまな実態というものを市町村長が把握した上で決断しなければならない、大変責任の重い決断であるというふうに私も受け止めておりますが、実際に個別具体のことについては、ちょっと私は承知をしておりませんので、担当のほうに聞いていただければと思いますが、ちょっとなかなか大変だなというような声が聞こえてきたと、私自身にですね、そういった声が間接的にはあるのですけれども、最近聞こえてきたということがありまして、内部で担当部と一緒に話し合いをしまして、やはり担当者間での説明会というのは行っているのですけれども、実際に決断をするのは市町村長でありますので、その方々に直接やはりお伺いをしていろいろな説明をし、疑問にも相談にもお答えできるというようなことがやはり大切なんじゃないかと、目の前に迫っていることでありますので、それでこちらから訪問して説明なりご相談に乗るというようなことを実施するということになりました。

河北町が第1弾というのは、このことを市町村にお知らせしたら、最初にご希望があったというふうに聞いているところです。そういうことで伺わせていただきますけれども、また、どこからかご相談がありましたら、随時対応するというようにしているということです。

記者

朝日新聞斎藤です。よろしくお願いします。

自民党総裁になった高市早苗さんですが、21日に臨時国会が招集されて首相指名選挙があ

るということで、今後どうなるか分かりませんが、今の政治的な状況によりますと、自民党総裁が新首相に選ばれるというふうなことが濃厚という観測がされています。

知事、先ほどおっしゃったように、女性として初めての総裁ということで、女性活躍に対してさらに推進していただきたいという期待もお有りだということですが、一方で高市さん、従来から選択的夫婦別姓には反対ということで、ジェンダー平等についてはあまり、推進するというふうなことはなかなか難しそうな感じもしています。同性婚についても反対ということで、これもLGBTQの観点からはどうなのかなという、そういうふうな疑問も持たれています。

あらためてになりますけれども、そういった高市さんの政策、かねてからの主張に対して吉村知事としては何か要望されることというのはおありでしょうか。

知事

そうですね。まず申し上げられることは、おそらく議員として、また総裁としてですね、女性としてというようなことではなく、人間としての力量がおありになるから総裁に選ばれたんだというふうに私は思っています。

私も、女性知事、女性知事と言われますけれども、なんで女性だけ「女性知事」と「女性」を付けられるのかと思いますし、本人は人間として知事をやっております。ですが、女性でありますので、そういったことでね、女性の視点は入っているというふうに思っています。

高市総裁も本当に、私は人間として素晴らしい方だから活躍されているんだろうなというふうに思っています。ですが、やはり、人口の半分は女性なのに、総裁は今まで女性が1回もなったことがないし、首相も女性がなかったことがないという歴史的なことを考えればやはり、素晴らしいことだと、本当に喜ばしいというふうに思っています。

高市さんのその主義、主張、信念がどういったものであれ、人口の半分の女性のお一人として1つの日本国の首相、もしそれが実現すればなれるということは、やはり素晴らしいことだなというふうに私は思っております。それがまず第1点です。

その次に個人の考えということで記者さんから問われましたけど、やっぱりそこところはですね、私がどうこう言っても、やはりそれぞれの方の信念に基づくものだというふうに思いますので、そこについて変更してくれとかね、そういったことはおそらく申し上げられない。ただ、女性活躍についてはしっかりと進めるというふうにおっしゃっておられると思いますので、できる限り、男性はもうすでに活躍しておられますし、人口の半分の女性も活躍、両方が活躍している国と片方だけ活躍している国とでは、国力がだいぶ違うと私は思うんですよね。ですから女性のほうの活躍もしっかりと進めていただくことで、日本がますます活力ある日本になるというふうに思っていますので、しっかりと女性活躍も進めていただきたいというふうに思っています。

そしてその女性活躍を進めていく中で、今記者さんがおっしゃったそういった具体的なことに対する女性たちの声もだんだん広がっていくんじゃないかというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。すみません、参考までに聞くんですけども、吉村知事は選択的夫婦別姓については、お立場は何か表明されていらっしゃるのでしょうか。

知事

表明ですか。そうですね、働いている女性方のお声をお聞きすると、やはり「選択的」ですからね、選択的ということであれば、やはりどちらにもそんなに問題はないのかなと思いますし、もっとしっかり議論を前に進めていただきたいなというふうに思っています。

記者

テレビユー山形の倉内と申します。よろしくお願いします。

先ほどからクマについての話題がずっと続いているところ恐縮なのですが、私からもクマについていくつか質問させていただきます。

知事の冒頭の発言でございました「緊急銃猟タスクフォース」についてだったんですが、詳細は担当の部署にということではあったと思うんですが、県と県警とがタッグを組んでタスクフォースという組織を設立して、各市町村長の悩みであったり、そういったところを解消していきたいという趣旨というふうにお聞きしたんですけれども、改めて県と県警とがタッグを組んで具体的にどういうビジョンと言いますか、今後緊急銃猟を行う上でスムーズに問題なくできるように、どういうビジョンを持って緊急銃猟の判断をしてほしいとか、そういった明確な意図などはございますでしょうか。

知事

そうですね、まずは、私もしっかりと理解していないのですけれども、緊急銃猟制度というものについての御説明をしっかりとさせていただくことがやはりひとつは大事、その制度を知ることによってやはり判断はしやすくなるのかなというふうに思っていますし、あと実態と言いますかね、例えばAというケースではこう、Bというケースではこうといった実態というようなことも例に挙げながらお話をすることで判断しやすくなるのかなと思いますので、担当のほうでそういったことも考えているというふうに思います。

もっと早くやりたかったんですけどね、私もその市町村長が大変悩んでおられる方もいるというようなことをお聞きしたのが議会中だったものですから、この時期になってしまったんですけれども、でも本当に今からでもやはりクマの出没はどんどんあると思いますし、冬ですね、どういう冬になるのか、冬眠しないクマも出てきているというようなことも言われていますので、やはりしっかりと県と市町村と県警と猟友会とか、そうやって皆タッグを組んで、しっかりと対処していくことが大事なのかなと、県民の皆さんの安全・安心につながるのかなというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。最後にもう1つなんですが、9月の、県議会9月定例会の中でもクマの対策についていろいろと予算をつけてくださって、今、河川の藪の刈払いなど急ピッチで進められていると思うんですが、ただ、今後もこういった状況、もう昨日も今日も今朝からずっとクマの出没が絶えない中で、やはりスピード感が求められていると思います。今後、冬、雪が降って、また年が明けて、4月にまたクマも活発化する中で、終わりのないクマへの対策、長期的に見たときに、次に県としてどういった、例えば国に対してクマの対策をどう呼び掛けていきたいですか、長期目線でのクマの対策について現時点で今考えられている施策などありましたら教えていただけますでしょうか。

知事

ありがとうございます。本当に、これがずっと続くのかということがまず1点ですね。今年はブナの実が本当に大凶作だと言われておりますので、そういう中ではやはり食べ物が無いというクマにとっては重大な事態になっていて、里のほうにまで下りてきているということが考えられます。

こういったことがずっと長引くとですね、今度はおいしいものが里のほうにたくさんあるというようなことが経験的に分かってしまうと、どんどんまた出没するということも考えられますので、やはりこれは県と市町村でももちろん全力を挙げますけれども、政府の施策としてもしっかりと一緒になって取り組んでいただけるように申し上げていく必要があるなというふうには思っています。

記者

現段階で具体的にこういった施策を呼び掛けていきたいというようなものは、今のところはないということでしょうか。

知事

そうですね、今はとにかくしっかりと目の前の出没に対してどう判断をし、決断をし、行動するかという緊急銃猟制度というものを理解し、活用しやすい状況を作っていくということが大事だというふうに思っています。

あと、もちろんそれだけではなくて、中長期的な視点というものも必要でありますので、担当部と一緒に検討していきたいというふうに思っています。

記者

再度失礼いたします。読売の仲條です。

話題はまったく変わってしまうんですけども、先日ですね、初代山形藩主の最上義光の功績を知ってもらおうということで、NHKの大河ドラマを実現しようというような市民有

志の会が発足しました。それで戦国時代ですか、日本中世史が御専門の山形大学の松尾（剛次）名誉教授が会の代表を務められています。

最上義光はまだ大河ドラマになったことがない状況かと思うんですけども、そうした動きが出てきていることについて、知事はどのような御所感をお持ちでしょうか。

知事

はい。松尾代表は1回知事室にそのことで見えられまして、お話をお聞きしましたけれども、私としては大賛成ということで、できる限りのご協力をさせていただきたいというふうに思っています。

最上義光公はですね、昔の大河ドラマで、あれは何でしたかね、大変な悪役にされちゃったんですね。

記者

「独眼竜政宗」です。

知事

「独眼竜政宗」ですね。あれで政宗のほうに非常に光を当てて、その影にされちゃったというか、本当にすごい悪役にされちゃったので、その印象が、大河ドラマですからたくさんの方がご覧になっていて、「最上義光って悪者なんだ」みたいな印象がたくさんの方に植え付けられていて、あれはやっぱり払拭していただきたいなという思いがあります。山形市民としてですね。本当に植木祭りというようなことも始めてくれましたし、それから家臣の北楯大学助（利長）でしたかね、という方が北楯大関というものを今の庄内町に作られて、そのおかげで豊かな庄内平野ができたというふうに思います。

やっぱりそれも最上義光公がそれを了承したからだと思いますので、本当に名君だと思います。ぜひね、1人の素晴らしい57万石の武将だったということをね、やっぱり大河ドラマでさまざまな人間ドラマも入れながら日本国中に知っていただければ大変ありがたいというふうに思っています。

記者

10月14日にはですね、実はお隣の仙台で「伊達政宗公の大河ドラマを誘致する会」というのがつい先日発足したばかりでして、そちらのほうには結構な数の自治体ですとか経済団体も参画したりですね、結構豪華な体制が整っているなというような印象がありまして、実は米沢市の近藤市長なんかも、米沢と伊達政宗は縁がありますから協力したいというようなことも、どうもおっしゃっているようなんですけども、なかなか物量で仙台に対抗するのには、我が方というか、山形もいろいろと動きが出てきてもいいのではないかなというふうに思ったりもするんですが、知事としてはそのあたりの意気込みというか。

知事

ありがとうございます。だって、「独眼竜政宗」で1回主演をやっていますからね、2回もって、ちょっと欲張りじゃないですか。ぜひ最上義光公がですね、大河ドラマの主人公になっていただきたいなと思いますので、しっかり体制をまた立て直して、力強く進めていただけるようにできる限りご協力をしていきたいというふうに思います。